令和３年度日本語指導研究推進事業
実践報告資料集

兵庫県教育委員会

目次

１　芦屋市立浜風小学校　　・・・　１

２　姫路市立船場小学校　　・・・　８

３　丹波篠山市立西紀南小学校　・・・　13

別紙

令和３年度　日本語指導研究推進事業　実践報告資料

［学校名：芦屋市立浜風小学校］

【具体的な研究テーマ】
生活言語から学習言語へと日本語能力を高めるための実践的な指導のあり方について

１　教科：単元名
国語：世界にほこる和紙～伝統工芸のよさを伝えよう～

２　実施日（時期）	３　実施場所
令和３年 11 月 19 日（金）	学びルーム

４　児童・生徒の実態に応じたねらい
⑴ 児童の様子･･･学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など
・学年…４年生
・国籍…ロシア
・日本語習得状況…ＤＬＡ結果より（５月実施）
「話す」ステージ３　「読む」ステージ２　「書く」ステージ２　「聴く」ステージ４

家庭内言語がロシア語であるが、日本生まれなので、生活言語はある程度習得している。教師や友だちの話を理解することはできるが、自分の考えを伝えるための言葉が見つからず、諦めていることが多い。
学習言語については、未習得のものが多く語彙が少ない。特に漢字には馴染みにくく、読み書きができる漢字は１年生程度のものである。
週に４時間程度の取り出し指導、１日に２時間程度の入り込み指導を行っている。放課後はほぼ毎日先行学習・復習・音読などを行い、学級での授業参加・授業理解を目標に取り組んでいる。

⑵ 日本語指導に関する目標
①事典や図鑑に興味を持ち、使い方を知る。
②文章の構成を知り、伝統工芸を伝える文を書くことができる。
③友だちが書いた文に関心を持つことができる。

⑶ 主な学習活動
①音読をする。
②本文の内容から伝統工芸の意味を学習する。
③事典を使って和紙以外の日本の伝統工芸を知る。
④事典を使ってロシアの伝統工芸を知る。
⑤本文の文章構成を学習する。
⑥ロシアの伝統工芸について伝える文章を書く。
⑦作った文章を発表する。
⑧友だちの文章を読む。

５　評価の観点（※指導案に記載してある場合は不要）
指導案に記載

６　指導内容の概要（※指導案別途添付）
①リライト教材を音読する。
②「よさを表す言葉」を見つける。

③「よさを表す言葉」の意味と使い方を知る。

7　指導内容・方法において工夫したところ

・リライト教材を使い、理解を促した。
・日本の伝統工芸自体をほとんど知らなかったので、どのようなものが伝統工芸なのかを知ることから始めた。
・文章を書くことに抵抗なく取り組めるように、担任がモデル文を示し、それに沿って書く活動とした。
・意欲的に取り組むことができるように、クラスで自分の作った文章を発表し、また友だちの作品を沢山読むことを目標とした。

8　教材・教具

・教科書（光村下）
・ワークシート
・伝統工芸（ポプラディア情報館）
・世界の図鑑（小学館）
・日本の図鑑（小学館）

9　活動の様子（写真等）や児童・生徒の感想等

児童が作成した伝統工芸の紹介文

文の構成を考える様子

クラスの友だちと読み合った伝統工芸の紹介文

（児童の感想）

・伝統工芸のことがいっぱいわかって楽しかった。
・ロシアのマトリョーシカのことに詳しくなった。
・みんなが調べたことがすごかった。
・他のものも調べてみたい。

（児童の様子）
・自分で調べたロシアの伝統工芸について発表したり、友だちが読んでくれたりして嬉しそうにしている姿が見られた。
・ロシアのことについて家族に聞いてくるなど、積極的に取り組むことができた。
・本を読む際に、文章だけではなかなか理解が難しいが、写真が多く載っている事典や図鑑に興味を持つことができていた。

10　日本語能力測定方法と評価（ＤＬＡの活用）

ＤＬＡによる日本語能力測定は、５月、１月の年２回実施し、対象の児童の日本語能力の伸びを図るとともに、効果的な日本語指導を研究するための参考として活用している。

５月の測定結果より、児童の苦手とする領域が明確になった。具体的には「読む」「書く」の能力が低いことがわかったので、教科の中でも特に「読む」「書く」活動を中心に取り入れるようにした。

11　実践をとおしての成果

・これまで道徳科で、多文化共生の観点からロシアの料理について発表したり、クラスの漢字の学習の時間にロシア語を友だちに教えたりといった経験を重ねていたので、母国の事を友だちに伝えるという活動にはとても意欲的に取り組むことができた。
・説明文の「はじめ」「中」「おわり」という基本の文章構成を学習し、それを活かして文章を作ることができた。この基本的な構成の文章は他でも使うことができるので、今後も文章を書く学習で使っていきたい。
・ＤＬＡと日本語習得度確認シートによる日本語の評価と測定を行ったことにより、児童の実態が把握でき、担任と、児童の課題や今後の目標などを共通理解するためにとても有効だった。さらに、１年間に２回ＤＬＡを実施することで、児童の１年間の学習の成果や課題がさらに明確になった。
・今まで在籍学級で言葉が分からずに授業中消極的だった児童が、先行授業や入り込みの支援を受けることで積極的に授業に参加し、自ら発表したり友だちに話しかけたりするなど、児童が在籍学級で生き生きと学習に取り組む姿を見ることができた。
・芦屋市では独自で「芦屋市日本語指導者養成研修」が開設され、多くの教職員が日本語指導の研修を受けることができる機会が設けられている。外国籍の児童も増えてきている実態から、日本語指導に関心のある教員も増えている。日本語指導推進教員として、県の研修や市の研修など多くの学ぶ機会があり、日々の児童への支援に生かすことができた。

12　今後の課題

・日本語指導と学年相当の学習内容を網羅するためには、多くの時間を要する。そのために、内容を精査したり分かりやすくしたりする工夫をしていく必要がある。
・児童の生活言語・学習言語共に実態をもっと細やかに把握し、学校全体の教職員と共通理解しておく必要がある。
・日本語指導推進教員として市内に日本語指導の知識や専門性を広げていくことができるよう、研修を重ね日々の指導にあたりたい。

第４学年　国語科（日本語）学習指導案

指導者　新屋敷　恵美子

1. 対象　　第４学年１組　１名
2. 日時　　令和３年 11 月 13 日（金）
3. 場所　　学びルーム
4. 単元名　ロシアの伝統工芸を伝えよう
   教材名　世界にほこる和紙～伝統工芸のよさを伝えよう～
5. 指導に当たって

(児童観)

児童は日本生まれでロシア国籍である。言葉に関して、友達との会話で困る事はほとんどない。学習言語においては、ひらがなであれば読むことができるが、カタカナ・漢字は未習得の文字が多い。また語彙に乏しく、１年生程度の言葉でもわからないことがある。文章を自力で読解することが難しく、文章に書き表す事はさらに困難である。

しかし、自分の意見を持ったり深く考えたりすることには長けており、とても意欲的である。文章として日本語で表現することに抵抗感があるので、児童の思いや考えを聞き取り、当てはまる言葉を選んで文章にする支援を行うことで「書く」ことに意欲を持てるようになってきている。

国語科では、授業での理解が深まるように、必要な単元で先行学習を行っている。先行学習を行うことで安心してクラスの授業に参加でき、発表への意欲にもつながっている。

(教材観)

今後も日本で生活を続けていく児童にとって、日本の伝統工芸を知るというのはとても大切な事である。また、母国であるロシアで生活をした経験がなく、ロシアの伝統工芸に触れる機会も乏しいと予想されるため、ロシアの伝統工芸を知ることも同時にとても大切なことであると考える。

本教材は、写真が多く使われており、「和紙」という身近なものが取り上げられているため、文章を読むことに抵抗のある児童も関心を持つ事ができる。実際に見たり触ったりすることを通して、より興味を持って文章を読み進める事ができるだろう。また、モデル文の構成もとても分かりやすく、この構成を使って今後も自分で文章を書くことができるようになると考える。

(指導観)

先行学習を行い、クラスで自信を持って学習を進めていくことを目標としているため、担任と十分に連携を取っておく必要がある。

自分しか知らないロシアの伝統工芸について文章で友達に伝えたいという意欲を持

って学習に取り組めるよう支援したい。

今までにも「ロシア語先生」となって友達にキリル文字を教えたり、ロシアの料理を発表したりする時はとても意欲的に学習を進めることができた。本単元でも百科事典に興味を持って自分から調べたり文章を書いたりすることを狙いとしている。

6. 単元目標

・文章の内容に関心を持ち、伝統工芸について伝える文を考えることができる。

・伝統工芸が書かれた文に親しみ、読書が必要な知識を得ることに役立つことに気づくことができる。

7. 単元評価規準

・百科事典・国語辞典の使い方を理解して使っている【知】

・文章の構成を考え、書き表し方を工夫している。【思】

・調べたことについて、構成を考え工夫して書こうとしている。【態】

8. 単元計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	・伝統工芸について関心を持つ。 ・学習のめあてを確認する。	・実物や写真を提示し、伝統工芸に興味が持てるように促す。 ・伝統工芸に関する本を読み始めさせる。（一緒に読み始める。）	【態】伝統工芸に関心をもち、学習の見通しを持って、進んで学習に取り組もうとしている。〔観察・発言〕
2	・本文の概要を捉える。 ・言葉の意味の確認をする。	・リライト教材より，大体の内容を掴ませてから本文に入る。 ・段落を確認し、「初め」「中」「終わり」の構成を押さえる。 ・挙げられている事例が何を説明しているのかを確認しておく。	【思】文章の内容から、「初め」「中」「終わり」の文章構成を考えている。
	・「よさを表す言葉」を文章から見つける。 ・資料（光村　言葉の宝箱）から、よさを表す言葉を見つける。	・「破れにくい」「長持ちする」などのよさを表す言葉の使い方を知り、他の「よさを表す言葉」を考えさせる。	【態】進んで「よさを表す言葉」を見つけようとしている。

3	・自分の選んだ伝統工芸について書く。	・「伝統工芸のよさを伝えよう」を読み、学習の見通しを持たせる。 ・取り上げたいものを決めた上で、本やインターネットで調べさせ、必要な情報を整理させる。 ・モデル文にそって文の構成を考え、下書きをさせる。	【知】百科事典や図鑑の使い方を理解し、使っている。〔観察〕 【知】読書が、必要な知識や情報収集に役立つことに気づいている。〔観察・発言〕
4	・友達の書いた文章を読む。	・わからない言葉や漢字は支援をし、友達の書いた文章を積極的に読もうとする意欲を持たせる。	【態】進んで友達の文章を読もうとしている。〔観察〕

9.　本時の目標

(1)　目標（国語科）

・和紙のよさを説明している文章を見つけることができる。

(2)　日本語の目標

・「よさを表す言葉」の使い方を理解することができる。

10.　本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1.　本時の学習課題を知る。	・写真を見ながら伝統工芸について学習したことを振り返る。	【態】伝統工芸について関心をもち、進んで学習に取り組もうとしている。〔観察〕
和紙のよさを表す言葉を見つけよう		
2.　リライト教材を音読する。 3.　「よさを表す言葉」を見つける。	・和紙のよさを説明している文を見つけながら読むように促す。 ・わからない言葉があればその都度国語辞典で意味を確認する。	【態】「よさを表す言葉」に注目して読もうとしている。〔観察〕 【知】国語辞典の使い方を理解し、使っている。〔観察・発言〕

4.　「よさを表す言葉」の意味と使い方を知る。 5. 今日の学習の振り返りをする。	・よさを表現する言葉を抜き出し、整理させる。 ・同じような意味を示す言葉を考えたり、資料から探したりするよう促す。（光村　言葉の宝箱より） ・聞いたことのない言葉や意味のわからない言葉についても、辞書を調べたり教師が説明したりして、関心が持てるように促す。 ・本時の学習を振り返り、次時の学習へとつなげる。	【思】見つけた言葉の使い方や事例を探したり考えたりしている。〔記述〕

別紙

令和３年度 日本語指導研究推進事業 実践報告資料

［学校名：姫路市立船場小学校］

【具体的な研究テーマ】
多文化共生～誰もが安心して学びあう学校をめざして～

１ 教科：単元名
算数科：100ｃｍをこえる長さ

２ 実施日（時期）	３ 実施場所
令和４年１月 28 日（金）	２年２組教室

４ 児童・生徒の実態に応じたねらい

⑴ 児童の様子･･･学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など

Ａ児　フィリピンルーツ（日本国籍）
Ｂ児　フィリピンルーツ（日本国籍）
Ｃ児　中国ルーツ　　（日本国籍）
Ｄ児　中国ルーツ　　（日本国籍）

⑵ 日本語指導に関する目標

・１ｍくらいの長さの意味がわかる。
・「□から、□までの長さは、１ｍくらいです。」、「□の長さは、１ｍくらいです。」に入れて、100ｃｍをこえる長さを表現できる。

⑶ 主な学習活動

①２人のペアで１ｍの長さをつくる。
②１ｍの長さが床から自分の体のどの辺りになるかをしらべる。
③２人組のペアで、教室の中で１ｍの長さをみつけ、発表する。
④学習を振り返る。

５ 評価の観点（※指導案に記載してある場合は不要）
※指導案に記載

６ 指導内容の概要（※指導案別途添付）

（１）１ｍの長さづくりをする。
　① 紙テープを用いてペアで１ｍの長さづくりを行う。
　② 作ったテープと１ｍものさしを比べ１ｍの量感を確かめる。
（２）身の回りから１ｍの長さを見つける活動を通して、１ｍの量感を身につける。
　① 床から１ｍの体の部位に手を横に合わせる活動で、１ｍの量感を確かめる。また、発表の際は、「□から、□までの長さは１ｍくらいです。」という話型を参考にして発表する。
　② 教室や廊下で１ｍくらいの長さのものを見つける活動で、１ｍくらいの長さのものを予想させてから、１ｍのものさしで確かめる。
（３）見つけたものを発表する。
　① 発表の際は、「□の長さは１ｍくらいです。」という話型を参考にして発表する。
（４）本時の学習を振り返る。

7　指導内容・方法において工夫したところ

・単元を通して、①本時の目標、②日本語の目標、③ターゲットセンテンス（本時の学習の目標を達成するために繰り返し使う言葉）を意識した授業づくりを行った。

・３つの支援（理解支援、表現支援、記憶支援）を授業の中に入れ、教科の目標を達成できるような工夫を行った。

8　教材・教具

１ｍのものさし　紙テープ　ワークシート

9　活動の様子（写真等）や児童・生徒の感想

〇学習の様子

〇長さの測定活動①

〇長さの測定活動②

【主な児童の感想】

・学校には１ｍのものがいっぱいあることに気づきました。

・１ｍのものをもっと見つけたいと思いました。

・自分の身の回りには１ｍのものがいっぱいあるんだなと思いました。

・いろいろなところに１ｍくらいのものがあるんだなと思いました。

・次は１ｍにぴったりの身の回りの物を見つけてみたいです。

10　日本語能力測定方法と評価（日本語習得度確認シートの活用）

・日本語指導が必要な外国人児童等の実態把握をするために、日本語習得度確認シートでアセスメントを行うことで、対象児童の実態を踏まえた授業づくりを行った。

11　実践をとおしての成果

・本時の目標を達成するための「日本語の目標」、「ターゲットセンテンス（本時の学習の目標を達成するために繰り返し使う言葉）」を意識した授業づくりを行うことで、児童の理解を深めるとともに、校内に日本語指導の具体的な在り方について共有することができた。

・３つの支援（理解支援、表現支援、記憶支援）を授業の中に入れたことで児童の実態に応じた支援を工夫できた。

12　今後の課題

今後、日本語指導を意識した授業づくりについて市内各学校に広げていくことが求められる。現在、授業実践で学んだことを生かし、日本語指導の経験の有無にかかわらず「日本語の目標」、「ターゲットセンテンス」を考えたり、３つの支援（理解支援、表現支援、記憶支援）を取り入れたりできるように、学習指導案のフォーマットを作成中である。来年度、姫路市帰国・外国人児童生徒等受入促進事業連絡協議会において、市内の教員に向けて日本語指導の授業づくりについて報告できるよう準備を進めていきたい。

第２学年２組　算数科学習指導案

指導者　安積　和貴

１　単元名　100ｃｍをこえる長さ

２　趣旨

○　本単元では、学習指導要領「Ｃ測定」の内容を取り扱う。第１学年では、「おおきさくらべ」の学習で２つ以上のものを比較するために自分で適宜決めた大きさを基にした任意単位による測定の学習をした。第２学年では、「長さ」の学習で、長さの普遍単位ｃｍ、ｍｍを学習する。また、初めて計器（ものさし）を用い、様々なものを実際に計測する活動を通して、長さの量感を養う。本単元で新たな普遍単位ｍを導入する。両手を広げた長さ、自分の体の長さ、黒板の縦の長さなど、できるだけ児童にとって身近なものの長さを測定する活動を通して、１ｍ以上の長さのものを測ることや単位ｍを適切に用いて表現する力が身につけることができる。また、１ｍの量感を身につけて、生活や学習に活用しようとする態度を養うことができる。さらに、長さについての加減計算の仕方を身につけることもねらいとしている。ここでの学習が、第３学年の「長さの測定」、第５学年の「歩幅の平均による歩測」、「円周の計量」の学習へとつながっていく。

○　本学級には、34 名の児童が在籍しており、そのうち、２名が中国にルーツのある児童で、２名がフィリピンにルーツのある児童である。学習の中で、言語面の支援が必要である。（別紙記載）
本学級児童の「長さ」の習熟度と定着度に関するレディネステストの結果は次の通りである。

問題	正答（%）
長さの量感と単位の選択ができる。（ｃｍ）	91%
長さの量感と単位の選択ができる。（ｍｍ）	44%
ものさしの目盛りを読むことができる。	38%
直線の作図ができる。	56%
長さの計算ができる。	87%

上記の結果より、ｍｍの単位の目盛りが読めない児童や正確に作図できない児童が多い。また、長さの計算では、ｃｍとｍｍの単位を混同して計算をしている児童や単位の繰り上がりのあるたし算ができない児童がいる。従って、全体的に長さの学習が定着できていない児童が多い。しかし、「ｍ」の単位は、未習事項であるが、児童にとっては算数の学習場面だけでなく、日常生活でもよく使われているためになじみがある。

○　指導にあたっては、まず、両手を広げた大きさは 30ｃｍのものさしでは測りにくいことに気づかせ、100 ㎝のものさしを導入する。長いものさしを用いて測るよさに気づかせて、100 ㎝をこえる長さの別の表し方や新たな単位の必要性を感じさせたい。次に、普遍単位ｍを導入して「１ｍ20ｃｍ」を、１ｍを基準として、「120ｃｍ」→「100ｃｍと 20ｃｍ」→「１ｍと 20ｃｍ」→「１ｍ20ｃｍ」というように複名数の表し方を捉えさせる。それから、身の回りから１ｍの長さを見つける数学的活動を通して、１ｍの量感をより確かなものにさせる。また、自分の体から１ｍをみつける活動では、床から１ｍの体の部位に手を横に合わせたり、「□から、□までの長さは１ｍくらいです。」の表現に入れて声に出したりすることで、１ｍの量感を身につけさせる。そして、教室や廊下で１ｍくらいの長さのものをみつける活動では、１ｍくらいの長さのものを予想させてから、実際の長さを１ｍのものさしで確かめさせる。そのときに、「□の長さは１ｍくらいです。」の表現に入れて表現をさせる。さらに、教室や廊下で、いろいろなもの（場所）を測る活動を行う。その時に「□から□までの長さは、△ｍ□ｃｍです。」、「□の長さは△ｍ□ｃｍです。」の表現に入れて表現させることで、長さの量感を具体的に捉えさせる。その後、長さの加減計算について、既習事項のｃｍとｍｍの単位の関係を想起させて、式の中に単位を表現することや、同じ単位同士をたす（ひく）ことを捉えさせる。
「△ｍ□ｃｍ＋△ｍ□ｃｍ＝△ｍ□ｃｍ」、「△ｍ□ｃｍ－△ｍ□ｃｍ＝△ｍ□ｃｍ」の表現を提示することで、計算の見通しをもたせる。これらの学習を通して、１ｍ以上の長さのものを正しく測ることや単位ｍを適切に用いて表現する力を身につけさせたい。また、１ｍの量感を身につけて、生活や学習に活用しようとする態度を育てたい。

３　小中一貫教育の指導の柱

・１ｍの量感を体得させ、１ｍをこえるものの長さを、見当をつけてから測ろうとする。
（自学力・探求力）
・友だちと協力して１ｍの長さを作ったり、長さを測ったりすることで、一人ひとりに活躍の場を作り、　自己有用感を高める。（自己肯定感）

4　単元目標

・長さの単位「m」を知り、「m」と「ｃｍ」の単位の関係を理解することができる。また、１ｍのものさしを使って、手際よく長さを測ることができる。【知識・技能】

・大きな長さの単位の必要性に気づき、１ｍをこえる長さの表すのに適切な単位を判断することができる。【思考・判断・表現】

・身のまわりの１ｍをこえるものの長さに関心をもち、見当をつけてから測ろうとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

5　単元の指導計画（全６時間）

時	児童の学習内容・活動	評価	大切な言葉、文章表現
1	両手を広げた長さ	（関）100ｃｍをこえる長さに関心をもち、測り方や表し方について意欲的に調べていこうとしている。	・こえる ・よそう ・〇人分 ・あらわし方
2	100㎝をこえる長さとその表し方	（知・技）１ｍものさしの仕組みや１ｍ＝100ｃｍであることを理解している。 （考）ｍの単位を使って長さを表現することができる。	・１ｍ＝100㎝ ・△ｍ□ｃｍ ・１ｍのものさし
3 **本時**	１ｍの長さづくり	（関）１ｍの長さづくりや長ささがしを通して量感を身につけている。	・みのまわり ・１ｍくらい ・あたり ・「□から、□までの長さは、１ｍくらいです。」 ・よそう ・「□の長さは、１ｍくらいです。」
4	見当づけをいかした測定	（考）１ｍの量感をもとに身のまわりのものがどれくらいの長さかを判断している。 （知・技）適切に単位を選択することができる。 （技）１ｍのものさしを使って、手際よく長さを測ることができる。	・よそう ・□をもとに ・「□から□までの長さは、△ｍ□ｃｍです。」 ・「□の長さは、△ｍ□ｃｍです。」
5	長さの計算	（考）単位に着目して、長さの計算の仕方を考えたり、説明したりしている。	・同じ単位をひく（たす） ・あわせた長さ ・長さのちがい ・「△ｍ□ｃｍ＋△ｍ□ｃｍ＝△ｍ□ｃｍ」 ・「△ｍ□ｃｍ－△ｍ□ｃｍ＝△ｍ□ｃｍ」
6	たしかめ	（知・技）ｍとｃｍの関係がわかる。 （知・技）長さの量感を捉えている。 （考）長さの関係を捉えて計算で処理することができる。	

6　本時の学習（第３/６時）

（１）本時の目標

１ｍの長さをテープでつくったり、身の回りから１ｍの長さをみつけたりして、１ｍの量感を身につけることができる。

（２）日本語の目標

・１ｍくらいの長さの意味がわかる。**(ア)**

・「□から、□までの長さは、１ｍくらいです。」、「□の長さは、１ｍくらいです。」に入れて、長さを表現できる。**(イ)**

（３）ターゲットセンテンス

・１ｍの長さと比べてどうですか。

・□から、□までの長さは１ｍくらいです。

・□の長さは１ｍくらいです。

（４）本時の展開

学習活動	・指導上の留意点　◆評価　理解支援**(理)** 表現支援**(表)** 記憶支援**(記)**	備考
１　本時の課題を知る。	（めあて）みのまわりから、１ｍの長さをみつけよう。	
	・１ｍ＝100 ㎝の掲示物を黒板に提示することで、１ｍの長さを確認させる。	掲示物
２　２人のペアで１ｍの長さをつくる。	・第１時の学習の両手を広げた長さを想起させて、１ｍの長さをイメージさせる。 ・１ｍの長さづくりの手順を示すことで視覚的に捉えさせる。**(理)** ・１ｍのテープを作るときに、テープをピンとはってたるまないようにするように声掛けをする。	紙テープ はさみ 掲示物
３　作ったテープの長さと１ｍの長さを比べる。 （１）児童が作ったテープと１ｍを比べる。 （２）１ｍのものさしと比べる。	・黒板にテープの端をそろえる線を引くことで、１ｍの長さとテープの長さを正確に比べさせる。 ・１ｍくらいの長さのテープを教師が用意しておき、必要な場合は１ｍのくらいの長さを提示して１ｍくらいを捉えさせる。**(理)** ・１ｍのものさしの長さと正確に比べるために、ペアで協力して、テープと１ｍのものさしの端をそろえさせたり、テープがたるまないようにピンと伸ばさせたりする。 ・体の部位の名称を示した掲示物をはることで、体の部位の位置を視覚的に捉えさせる。**(理)**	１ｍのものさし 掲示物
４　１ｍの長さが床から自分の体のどの辺りになるかをしらべる。	・床から、自分の体の１ｍの部位の位置で手を横にさせることで、１ｍの長さが自分の体の下からどの部位になるかを具体的に捉えさせる。**(記)** ・「□から、□までの長さは、１ｍくらいです。」の表現に入れて、発表させることで１ｍの量感を体で捉えさせる。**(表)**	 掲示物
５　２人組のペアで、教室の中で１ｍの長さをみつける。 （１）１ｍくらいの長さのものを予想する。 （２）実際に１ｍのものさしを使って、たしかめる。	・教室の中で、１ｍくらいの長さを児童と一緒に決めることで、１ｍくらいの長さを全体で統一させる。 ・１ｍの長さみつけの手順を示すことで視覚的に捉えさせる。**(理)** ・実際に測る前に、１ｍくらいになるものを予想させてワークシートに書くことで、長さを見当づけする力を身につけさせる。**(理)** ・測った後に、ワークシートの欄に「１ｍくらい」に○か×かをつけさせ、予想と比較させることで、１ｍの量感を捉えさせる。	 掲示物 ワークシート
６　みつけたものについて、発表する。	・「□の長さは１ｍくらいです。」の表現に入れて、みつけた長さを発表させることで、１ｍの量感を具体的に捉えさせる。**(表)** ◆身の回りから１ｍをみつける活動を通して、１ｍの長さの量感がわかる。【思考・判断・表現】	掲示物
	（まとめ）・□から、□までの長さは１ｍくらいです。 ・□の長さは、１ｍくらいです。	
７　振り返りをする。	・ワークシートに振り返りを書かせることで、次時の測定の活動へ意欲をもたせる。	

別紙

令和３年度　日本語指導研究推進事業　実践報告資料

［学校名：丹波篠山市立西紀南小学校］

【具体的な研究テーマ】
日本語指導の必要な児童への日本語理解能力の定着をめざした支援の在り方について

１　教科：単元名 国語科「新１年生に学校しょうかいをしよう」	
２　実施日（時期） ３学期	３　実施場所 会議室及び紹介する各教室
４　児童・生徒の実態に応じたねらい ⑴ 児童の様子･･･学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など ２年生のブラジル籍の児童で、幼稚園の時に来日してきた。家庭ではポルトガル語で会話をしているが、本児はポルトガル語での読み書きは難しい。１年生入学時から、特別の教育課程を組みながら本児に応じた学習に取り組んできた。本年度実施した本児のＤＬＡの結果は、「聞く」は個別学習支援段階だが、それ以外の項目は初期支援段階である。普段の日本語指導の様子から、文字の習得に課題があり、定着に時間がかかることが伺える。集団の中での一斉指導では指示の聞き取りが難しいことが多く、個別の声かけが必要である。しかし自分の気持ちを伝えようとする意欲は高く、知っている単語を並べてやりとりをしようとする姿勢がみられる。「～です」「～ます」の表現を使って話すことは、まだ定着していない状況である。 ⑵ 日本語指導に関する目標 ・「～です」「～ます」の表現を使って、紹介できる。 ⑶ 主な学習活動 ・教室の名前、そこにある物の名前を確認する。 ・助詞や文型を意識して、学校を紹介する文を作る。 ・紹介する様子を動画で見ることで、改善点を考える。	
５　評価の観点（※指導案に記載）	
６　指導内容の概要（※指導案別途添付）	
７　指導内容・方法において工夫したところ 文で話そうとする意識を高めるため、単語と文の違いを明確に伝えるようにした。本児が自分で考えながら、助詞を選べるように視覚的に掲示することにした。またタブレットＰＣを使用することで、自分が話している様子をすぐに見て振り返ることができるようにした。	
８　教材・教具 ・助詞カード ・文型・話型をまとめた掲示 ・タブレットＰＣ	

9　活動の様子（写真等）や児童・生徒の感想等

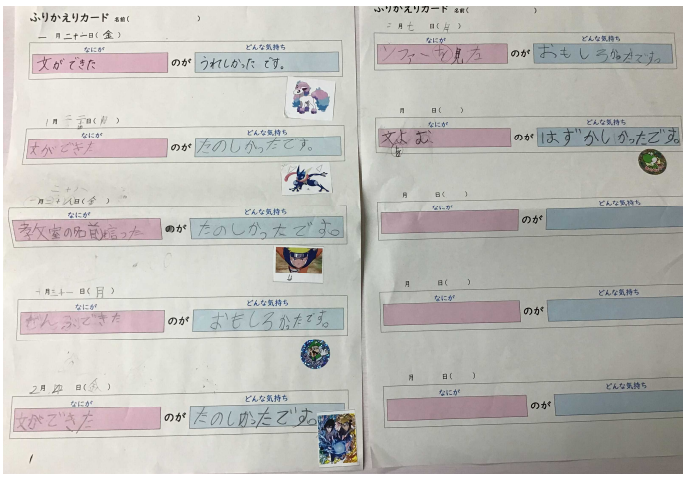
紹介文を考えている様子

「あります」「います」の
使い方の違いを考えている様子

今までに学習した話型を使って
助詞を確認している様子

紹介する練習をしている様子

先生に紹介をしている様子



本児の振り返り（一言感想）

10　日本語能力測定方法と評価（ＤＬＡの活用）

ＤＬＡの測定は、日本語指導が必要な児童全員を対象に実施した。測定者は、日本語指導推進教員及び市の日本語指導員である。ＤＬＡの実施により、児童の得意な領域、苦手な領域を把握することができた。評価をもとに個別の指導計画の見直しを行い、職員及び関係機関と評価を共有したことで、指導内容を明確化できた。

【本児のＤＬＡの結果より】

聞く力の伸びにより、指示されたことや質問の内容を理解できるようになってきていることが伺える。それに伴い、話す意欲が増しており、普段の生活の中でコミュニケーションを楽しむ場面が多く見られるようになってきている。しかし、会話の中では語順の乱れと助詞の欠落が目立つ状況である。会話を通して、正しい語順や文章を意

識させることで、読み書きの力の底上げにも繋がると考える。
11　実践をとおしての成果 ・授業の回数を重ねるごとに、「です」「ます」の語尾を意識して話せるようになった。また、自信を持って日本語を話す姿が見られた。 ・話し言葉の中で助詞の「と」を使用できるようになってきた。 ・紹介文を考えたり、毎時間振り返りとして一言感想を書いたりする活動を通して、自分の力で文を書こうとする意欲が見られるようになった。 ・動画の活用により、客観的に自分を見つめて自分の課題に気付けた。
12　今後の課題 ・助詞の理解がさらに深まるように、イラスト、動作化、ロールプレイなどの様々な方法を用いて、本児がイメージ化しやすいような工夫を取り入れていきたい。 ・助詞カードを教員が作成するのではなく、本児が自分で作ったものを授業で活用していくことで、助詞を使おうとする意識をより高めていきたい。 ・「です」「ます」の語尾や助詞を意識して話せるようになるには、今回の単元だけでなく、何度も繰り返し練習したり、話す機会を設定したりすることが必要である。そのためには、取り出し指導の時だけでなく、在籍学級での授業の中でも意識できるように声掛けや板書の工夫、話す場の設定などが大切である。今後も在籍学級担任と本児の課題を共有し、在籍学級の中でどのように取り出し指導での学びを活用していくかを考えていきたい。

第2学年 日本語指導学習指導案

指導者 荻野 知美

1 対象 第２学年１名

2 日 時 令和4年2月7日（月） 5校時 13:20 ～14:05

3 単元名 国語科 「新１年生に学校しょうかいをしよう」

4 単元の目標

・新１年生に紹介したい内容を考えることができる。

・助詞を適切に使い、学校を紹介する文を作ることができる。

・言葉の区切りに気をつけて、正しい語順で話すことができる。

5 日本語の目標

「～です」「～ます」の表現を使って、紹介できる。

6 単元について

本児は特別の教育課程を編成して、取り出し授業を受けるのは２年目である。取り出しの日本語学習に対し、前向きな気持ちで取り組むことができている。そして、１学期に比べ、集中して学習できる時間が増え、日本語を話そうとする意欲の高まりを感じているところである。しかし、日本語を使ったコミュニケーションの中では語順の乱れや助詞の欠落が目立ち、単語レベルでのやりとりになっているのが現状である。特に、語尾が「ある・いる」「いい」「ない」などになることが多く、「～です」「～ます」の丁寧語で話すことが難しい。また在籍学級と連携しながら、国語科の各単元の終末活動に参加できるように、リライト教材を使用した先行学習を行いながら、児童が発表できる場を設定してきた。取り出しの中での発表練習では、大きな声で話すことができるようになったが、在籍学級での発表になると、緊張から小さな声になってしまう様子が度々見受けられるのも課題の１つである。

本単元の「新１年生に学校しょうかいをしよう」では、 日本語指導が必要な新１年生に対し、普段生活をしている自分の学校を紹介する内容となっている。児童の今までの生活体験から、話したい内容を意欲的に考えることができると考える。 また、校内の複数の教室を紹介していくことで、文型の定着を図れると考える。紹介形式を対面型にするのではなく、ビデオにすることで、リラックスして、自信を持って話すことができるように設定した。またビデオとして動画に残すことで、自分のがんばりを実感しやすいと考える。成功体験を積み重ねていくことで、児童の自信に繋げていきたい。また、日本語の紹介文のあとに続いて、ポルトガル語で紹介文を話すことで、新１年生により伝わりやすい紹介にするとともに、母語を大切にする気持ちも高めていきたい。

指導にあたっては、いきなり紹介する文章を作成するのではなく、スモールステップで取り組ませたい。そのためにまず、校内をめぐりながらどのような教室があるか確認したい。そして、教室の名前やそこにある物・使う物などの語彙をおさえていき、その上で、本児が単語単位で述べた紹介したい内容を文章化していく。その際には、既習内容や文型の提示、助詞カードなどを使って、視覚的に情報を捉え、考える手掛かりになるような支援を行いたい。またタブレット端末を使用し、その場で撮影した動画を本児がすぐに視聴すること

で、上手に言えたことを視覚的に実感できるようにしたい。また、動画の中の自己の姿から、言葉の区切りや声の大小などの改善点はないかを考えさせたい。

7 単元計画（全8時間）

時	主な学習活動	指導上の留意点	ターゲットセンテンス（評価）
1	○学習の見通しをもつ。 ・単元の目標を知る。 ・紹介したい場所を考える。 ・学校の場所や各教室で使う物の名前を確認する。	・イメージを膨らませるために、校内を周り、紹介したい場所を決めさせる。	**「○○をしょうかいします。」** ・紹介したい場所を考えることができる。
2 8	○紹介文を考える。 ・単語を並び替える。 ・助詞を入れて文章にする。 ・動画を撮る。	・単語ではなく、文章で話すことを意識させる。	**「ここ（これ）は○○です。 ～のときに　つかいます。 ○○は、～をするところです。 ○○は、～と～があります。」** ・助詞を使った文章で話すことができる。 ・言葉の区切りに気を付けて、話すことができる。

8 本時の学習（6／8時間目）

（1）本時の目標

・単語を並び替え、助詞を選んで文章にすることができる。

・言葉の区切りに気を付けて、話すことができる。

（2）展開

学習活動	指導上の留意点
1 「めざせ日本語マスター」に取り組む。 2 本時の学習課題を確認する。	・必要に応じて、教員の言葉を反復させ、日本語の表現に慣れさせる。 ・前時の学習内容を想起させる。
○○をしょうかいする文しょうをつくろう。	
3 単語を並び変えて、文にする。 4 説明する練習をする。 5 動画をとり、視聴する。	・前時に考えた内容を単語ごとに短冊にすることで、視覚的に考えやすくする。 ・カードから、助詞を選択させる。 ・「こ」「く」「て」の発音に気をつけさせる。 ・言葉の区切りに注意させる。 ・黒板の文字を見て読む活動にならないように、できるだけ覚えて言えるように意識させる。 ・動画を視聴し、良い点、改善点を考える。 ・改善点に応じて、再度撮り直しをする。
6 本時の学習のふり返りをする。	・一言感想を書く。 ・がんばったことを誉め、次への意欲を高める。 ・次時の内容を伝える。